

学校における生徒の対教師敬語使用 新潟市とその周辺にある小学校・中学校・高等学校の調査結果から

Elena Slyusareva

Abstract

This paper analyzes the students' actual use of the honorific expressions to a teacher and the changes in their usage accompanied by the developmental stage of the students. For these purposes the author gathered data by recording conversations between students and teachers, and these between students and the author, and at the same time analyzed questionnaires and compositions written by students. The entire data was gathered from elementary, junior and senior high school students in Niigata city and its surrounding areas. Based on the obtained data, the actual usage of honorific expression of students is examined. Consequently, it became clear that, the language activities varies with a student's growth process. The 3rd grade elementary schoolchildren consider teachers to be "their absolute superiors" and use consistently honorific in conversation, although their knowledge of an honorific is deficient. In the data of the 6th grade elementary and the 2nd grade junior schoolchildren the intimacy and the various self-expressions to a teacher are observed overwhelmingly. They are attaching greater importance to the intimacy with a teacher than to a vertical relation. In the case of the 2nd grade senior high school students, they recognize the conversation with a teacher to be a public scene, and use honorific expression intentionally.

キーワード.....敬語 親疎関係 「ウチ・ソト」グループ 文体

はじめに

現代日本語における「敬語」はいくつかの点で変化していると言われる。「目上の人に対して使う」などといった典型的なイメージで語られるものとは、違ったものになっているとされる。井上(1999)は「敬語の民主化」と「敬意低減の法則」を世界の多くの言語に見られる普遍的変化とみて、敬語の使い方が民主的になり、平等的になる傾向を指摘している。井上(1999)は現代日本語の敬語に見られる「敬語の丁寧語化」、「話題敬語¹⁾の対話敬語化」など、の変化を挙げている。小学校6年生²⁾の会話はそのことをよく示している。

(1) 105³⁾男子2 他所の人だとー (言葉遣いが⁴⁾変わるけどー、 先生とかには全然変わらない。

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

- 106 女子 2 変わる? ⁵⁾
先生には変わらないよね。
- 107 エ⁶⁾ ああ、どうして先生には変わらない? もう親しい...
- 108 男子 2 慣れてる。
- 109 女子 2 そんな感じだから、あまり敬語を使わない。
- 110 男子 1 使わない。話しやすい。
- 111 エ 話しやすい。

(新潟市内 A 小学校 6 年生。録音した会話から)

(1)の生徒たちの発言は彼らが先生を目上と意識しているよりは親しい友達、あるいは「ウチ・ソト」概念でいう「ウチ」の側の人と見ているかのようである。

今回の研究の現場は学校である。そこでは様々な人間関係が存在する。教師対生徒という上下関係の存在、と同時に教育上の心の通うコミュニケーションに必要な親しさが存在する。次の高 2 の会話は、教師に対する尊敬の気持と同時に教師に対する親密さの優先をよく示している。

(2)91 エ 場面に応じて言葉遣いを選ぶとき、その判断をするために、どんな条件がありますか。

- 92 男子 1 自分と相手との関係、尊敬する人とか。
- 93 エ 尊敬する人は誰ですか。
- 94 女子 1 やっぱり先生。
- 95 女子 2 そうでもないか。タメ口⁷⁾。
- 96 男子 2 基本的に尊敬する人に対しては敬語を使うんですけど。自分と身分同じでも、まー、尊敬語を使う人もいますし。逆に、尊敬するから、かえってタメ口言葉になるし。気心が知れたからかもしれません。
- 97 女子 2 そう、仲良くなっているから。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。録音した会話から)

井上(1999)および阪本(2001)が指摘しているように、親しさの度合いが敬語使用の重要な基準になってきている。敬語を使うか使わないかを決めるのは、第一に親しいかどうかであるとも言える。初対面では敬語を使っても、親しくなれば使わなくなる。「目上」という概念は、敬語を使うかどうかの基準であるとは必ずしも言えなくなっているようである。

本稿では、生徒の対教師敬語表現の使用の実際と、彼らの発達段階に伴う変化を調査する。

1 調査方法

新潟市とその周辺にある小学校から高等学校までの生徒を対象にして、会話の録音、作文、アンケートなどによる調査を行った。

話し言葉における調査の対象になったのは新潟市とその周辺にある小学校(2校)：第3学年、(男子4名、女子4名)、第6学年(男子4名、女子4名)；中学校(3校)：第2学年(男子12名、女子12名)；高等学校(1校)第2学年(男子4名、女子4名)の生徒である。調査方法は次の通りである。筆者が各学校を直接訪ねた。データ収集は会話の録音により行われた。会話のデータは2種類ある。一つは、生徒と教師との自由な会話を録音し、文字化したものである。もう一つは、教師がその場にいない状態で、調査者と生徒との会話を録音し、文字化したものである。各学校で生徒を2グループに分けて、教師との会話の録音を2回行い、調査者と生徒との会話の録音も2回行った。各ケースの会話の長さは15～20分程度である。会話の録音の合計は25編になる。

調査時期は2001年7月下旬～2001年9月上旬、2001年10月下旬である

2 話し言葉における敬語表現の使用

生徒と教師との会話の録音を文字化して、会話のテキストを分析した結果は表1で示す。表に示された分析結果に基づいて、それぞれの発達段階における特徴について述べる。

表 1 生徒と教師との会話の分析

学校		小 3		小 6		中 2		高 2		
		男子 4 名	女子 4 名	男子 4 名	女子 4 名	男子 12 名	女子 12 名	男子 4 名	女子 4 名	
Turn-taking 数 ⁸⁾		34	29	100	77	304	179	33	77	
節数 ⁹⁾		53	50	129	96	293	322	62	159	
敬 語	尊敬語(文中含めて) ¹⁰⁾	0	0	0	0	0	0	0	0	
	謙譲語(文中含めて)	0	0	0	0	0	0	1	0	
	丁寧語(文中含めて)	38 72%	35 70%	28 22%	30 31%	102 35%	81 25%	49 79%	108 68%	
	美化語	3	2	3	0	0	0	0	4	
自 称 詞	私	0	1	0	9	0	3	0	6	
	俺	1	0	1	3	7	0	1	0	
	僕	1	0	2	0	0	0	4	0	
	自分	0	0	0	0	0	0	0	1	
文 末	文体 ¹¹⁾	文体の総数	41	36	106	84	259	260	38	100
		敬体	37 90%	35 97%	21 20%	23 27%	72 28%	60 23%	30 79%	77 70%

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

形式	常体		4	1	41	35	103	114	5	22
			10%	3%	39%	42%	40%	44%	13%	20%
形式	体言止め		0	0	44	26	84	86	3	11
					41%	31%	32%	33%	8%	10%
伝達 態度 表現 ¹²⁾	よ	よ	1	0	1	1	2	7	0	4
		ね	0	0	5	2	10	11	1	3
		よね	0	0	3	0	1	6	0	2
疑問文	「か」使用		0	0	2	4	16	9	0	2
		上昇 intonation	0	0	12	8	25	24	4	15

(調査にもとづき筆者作成)

2 - 1 敬語使用

敬語使用率

敬語使用率を明らかにするために、会話の参加者の発言を節の数に分けて数えた。

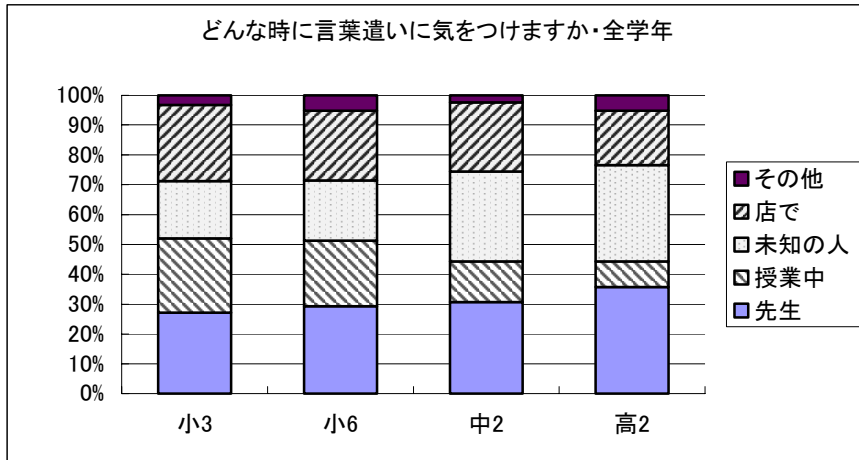
教師と直接会って話す時に、小3の敬語使用率は高かった。敬語使用率は男子72%・女子70%である。教師との会話において、小3による敬語の使用(敬語の指導がまだ行われていないため、小3の敬語の使用は丁寧語に限られている)は各会話の最初から最後まで一貫して保持されている。教師と会話の中で、小3の言葉遣いは丁寧であるということは、小3にとって教師は目上の人であり、教師との会話が改まり度の高い場であることを示す。

小6と教師と会話において、小6の敬語使用率低かった(男子22%、女子21%)という結果が出た。二つの小学校の小6(全員で60名)を対象としたアンケート調査の結果によると、小6は敬語について知識を持っていることが分かった。「敬語について知っていることがあれば、自由に書いてください」という設問に対して「知っていることがある」と答えたのは65%だった。その中に71%は「敬語は目上の人、先生などに使う」と自由欄に書いた。

「どんな時に言葉遣いに気をつけますか」という設問で生徒の相手による言葉遣いへの配慮を調べた。図1で示すように、配慮の大きさの順番によると「上下関係」(先生と話す時)は全学年にわたって配慮が一番高いデータが出た(小3・27%、小6・30%、中2・31%、高2・36%)。「上下関係」が生徒にとって言葉遣いに気をつける際の大きな尺度となっていることが分かった。

図
手に
葉遣
配慮

1 相
よる言
いへの



(調査にもとづき筆者作成)

得られたアンケート結果は小6が教師に対する敬語を使って話すべきであることを理解することを示す。しかし、実際の敬語使用率は低かった。敬語の種類に関して、小6は教師に対する丁寧語を使っているが、尊敬語及び謙譲語を使っていない。美化語の使用は見られた。小6の教師との会話の例を見てみよう。

- (3) 79 先生(男) 真面目な話！他の人はどんな人？
 82 男子2 中学生。
 83 先生 中学生に使うの？(敬語を)
 86 女子2 そう、そう。バレーを習った時「指導してくださった」、「指導していただきました」。だって、内の先生ならば(敬語)を使うわけじゃないですか。
 87 男子1 そう、そう。「指導してくださいました。」

(新潟市内小学校6年生。録音した会話から)

(3)では、小6は敬語について知識を持ち、実際に使用していることが示されている。(3)は、小6にとって「バレーを指導した中学生」は「ソト」の人であり、教師は身近な存在である「ウチ」の人と見なされていることを示す。小6の敬語使用は「上下」という基準よりむしろ、「親疎」という基準になっている。敬語使用の維持性に関して、小6による敬語の使用は会話の最

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

初2~3分という短い間しか見られなかった。小6の対教師の敬語使用は緊張感が高い時に限られていることが分かる。

中2と教師との会話において、中2の敬語使用率は小6と同様に低かった(男子35%、女子25%)。男子の敬語使用率は女子より高いと言う結果が得られた。中2の会話例は次のようである。

- (4) 13 先生(男) Eさんは E君はバスケット部だったっけ？
14 男子2 「さん」ですか。 「当たり。
15 先生 そうね。部活は詰まらない？
16 男子2 まあ、一言でいうと、暑い。
48 先生 よしー。えー、学校が楽しいのはいつかな？
49 男子1 は！給食かな。
50 先生 給食かな。お前、いつ楽しい？
51 女子1 遊んでいる時。
56 先生 昼休みに何をしている？男観察してる？
57 女子1 は?!話したりしてる。
65 男子1 ...昼休みに屋根で寝てる。...暑い、暑い。スゴイ暑い。
73 先生 自然と一体感。屋根と一体感がある。
74 女子1 ヤだ！

(新潟市周辺E中学校2年生。録音した会話から)

録音された中学生と教師との会話において、中2の対教師言葉遣いはほとんど(4)で見られるようなものであった。教師に対して「常体」を含む発話しか現れていないということから、中2が教師を「親疎」関係における「親」の関係にある人と見なしていることが言える。敬語使用において、中2の場合「丁寧語」は見られたが、「尊敬語」「謙譲語」「美化語」の使用はなかった。教師に対す中2の「丁寧語」の使用は会話が始まった直後(2分程度)、教師と一対一で話す時(緊張感が高い時)又は謝る時、などのような感情的な変化が見られる場合に限定されている。このような使い方は中2にとって敬語使用が心理的な距離を置くための方略であることを示す。

高2の対教師の敬語使用率は高かった(男子79%、女子68%)。小3・中2と同様、男子による敬語使用率は女子より高かった。敬語使用の維持性に関しては、相手によって言葉遣いを意識的な調整しながら高2は全会話にわたって教師に対して敬語を用いている。一方、高2による「文中」での敬語使用も見られた。その例を見てみよう。

- (5)23 女子2 ...水泳はもうすぐ大会が近いから、今年からプールができましたから、今年は一生涯懸命やっています。書道の方は二つの書道展がありますので、それに向かって、今から少しずつ

書き込んでいます。

28 男子 2 僕は帰宅部です。前まで、柔道部をやっていたんですけど、勉強との両立が難しくなってやめました。はい。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。録音した会話から)

教師との会話は改まり度が高い場であることを表している。調査対象である 4 つの成長段階(小 3・小 6・中 2・高 2)の中で、謙譲語の使用は高 2 でしか見られなかった。敬語使用率の高さや一貫した使用は、教師が目上の字とであることと教師との会話が改まった場であることを高 2 が認識していることを明確に示している。

文末形式

日本語においては命題に対する話し手の様々な主観態度は文末で表される。生徒の対教師敬語表現との関連において、生徒によって使われた文末表現の機能を考えてみたい。敬語表現に関すると思われる文末表現を選び出し、それらを「文体」、「伝達態度表現」に分けた。

文体

本稿でいう「文体」は会話相手との関係に応じて選ばれた文末の形式のことである。話し手が用いた文末形式としての「文体」は、話し手が聞き手に対して配慮、心理的距離を明示的に示す言語形式であると言える。本稿で分析の対象にした文体は「敬体」、「常体」、「体言止め」の 3 つである。教師との会話の中で、生徒が伝達する内容に「相手との関係」という情報を付加し、文末形式を選ぶ。発達段階ごとに文体を見る。

小 3 の文体として区別されたものの総数、(男子 41、女子 36)の中に「敬体」の使用(男子 37 回・90%、女子 35 回・97%)は圧倒的だった。小 3 のデータには、教師との会話において、小 3 による「体言止め」の使用が見られなかった。数少ないが、「常体」の使用(男子 4 回・10%、女子 1 回・3%)が見られた。教師との会話の中で、小 3 による「常体」の全ての使用は同席の友達の発言に対して自分の意見を述べる時に用いられた。全体として言えることは、小 3 にとって、教師との会話が改まりどの高い場であることがよく分かった。

得られたデータでは、小 6 と中 2 の「文体」使用の傾向が似ていたため、これらの 2 つの発達段階を一緒に考察する。小 6 と中 2 は、教師との会話の中で、表 1 で分類された文体の 3 つの文末形式すべてを用いた。小 3 のデータと極めて対照的である。小 6 の「常体」の使用頻度(男子 41%、女子 35%)、及び「体言止め」の使用頻度(男子 44%、女子 26%)が際立っている。小 6 と教師との会話において、「常体」の使用も「体言止め」の使用も「敬体」の使用を上回っているという結果が得られた。一方、中 2 が教師との会話の中で用いた「常体」(男子 40%、女子 44%)、「体言止め」(男子 32%、女子 33%)の頻度は極めて高い。小 6 と中 2 の対教師会話の例を見よう¹³⁾。

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

- (6) 19 先生(男) ...じゃーね、話題を変えますよ。好きなスポーツ？
- 20 男子₁ サッカー！
- 21 先生 サッカーだなー。
- 22 男子₂ テニス。
- 46 先生 大きくなったら、何になりたい？
- 47 男子₂ サッカー選手。
- 55 先生 聡は？
- 56 男子₁ 美味しい、美味しい肉屋!
- 61 先生 よくある、ケーキ屋さんになりたいとか。
- 62 女子₂ ケーキを作って自分で食う。

(新潟市内 B 小学校 6 年生。録音した会話から)

(6)のように、教師に対する小6・中2の「常体」、「体言止め」の使用の大きさは注目に値する。一方、「敬体」の使用に関しては、興味深い事例が見られた。小6と中2が「敬体」を用いたケースは、一時的な感情的の不安定状態(怒り、軽い後悔、緊張感、など)に限られていると思われる。そのような「敬体」の使い方は相手との心理的距離を示すための一つの手段であると考えられる。小6・中2は、教師に対して親しみをもち、自分と同じ「ウチ」のグループの人であると見なしていることが分かる。成長段階の特性として、これら12~14歳の子供は公的な場と私的な場とを区別する認識力が未完成であると言える。一方、教育上の方略として、教師の方からも、生徒に対して呼び捨てをしたり(3回)、生徒たちを誉めたりする。そのような教師側の言語表現は生徒たちとの心理的距離を縮め、親密さを表すためのものと考えられる。

高2による「敬体」の使用数は非常に高かったという分析結果(男子79%、女子70%)が出た。高2は直接教師に向かって発言する場合、ほとんど常に「敬体」を使用していた。一方、同席の友達と話す時には、「常体」・「体言止め」の使用も見られる。つまり、向けられた相手によって高2の発言の「文体」が大幅に変わる。高2は会話における社会性を行動に獲得していると言える。すなわち、彼らは会話が行われる場が公的か私的であるかについて判断した上で、相手に応じた言葉遣いができるのである。

伝達態度表現

「伝達態度表現」として特に終助詞「よ」、「ね」及び「よね」を取り上げた。これらの表現が生徒と教師との間の距離の関係を考察するための一つの指標になると考えたからである。時枝(1951: 8-9)は「ね」と「よ」を挙げて、「よ」は「聞き手に対して話し手の意志や判断を強く押し付ける表現」、「ね」は「聞き手を同調者としての関係に置こうとする主観的立場表現」と述べている。メイナード(1997)も「ね」を「聞き手の意思や気持ちを尋ねる表現に使われる」、「よ」を「相手の意思を尋ねる余地がなく、相手に関わらず話し手の意志を押し出す

時や、押し出すことを意図する時使われる」(1997: 105)と述べている。メイナード(1997)によると「ね」と「よ」の選択は情報の相対的所有度によって行われるとされる。話し手が聞き手に比べてより詳しい情報を持っている時は「よ」を使う、聞き手がより詳しい時は情報自体に焦点をあてることを避けて「ね」を選ぶ。そして、メイナード(1997: 109-111)は「ね」と「よ」の機能を考察し、会話における「よ」と「ね」の使用の直後に行われる発話行動を分析し、「ね」の後にあいづち、「よ」の後に話者交換が多く来るという結果が得られてと報告している。「ね」も「よ」も相手からの反応を要求する表現であって、「ね」があいづちを要求することから、相手との心的態度を縮めることによって親しみを表す機能を持つとされる。

本稿は、終助詞「よ」、「ね」、「よね」に関する情報の所有度という観点に同意する。一方、これらの終助詞の共通点をあげるならば、距離を縮めるための対人的な機能を果たし、いわゆる親しさというアプローチの中で使われているということである。つまり、「よ」、「ね」、「よね」に関しては、先生と生徒との間の距離を縮める働きを持つという共通点があると捉える。「対人関係的終助詞」は他にもいくつか考えられるが、本稿では便宜上「よ」、「ね」、「よね」を指して、「対人関係的終助詞」と呼ぶことにする。

小3は教師との会話の中で「対人関係的終助詞」をほとんど用いなかった。全会話にわたって、終助詞「よ」は1回使われただけである。その例を見てみよう。

- (7) 54 先生 先生とどんなことについて話をする人が多いですか。B君。
 56 男子B 漢字を教えてもらったりします。
 57 先生 Aさん。
 58 男子D 俺分かるよ!
 59 先生 D君。
 60 男子D はい。発言とか発言のことを先生に聞いたり...します。

(新潟市内B小学校3年生。録音した会話)

(7)で教師は生徒たちの名前を呼び、質問に答えを求めている。教師との全会話において、小3年生は発言する順番を厳守している。(7)の58は唯一の例外である。58の男子Dは教師の質問に対して、より適切な情報を持っていると判断し、終助詞「よ」の使用によって、発言する意志・欲求を強く示している。(7)の58での終助詞「よ」の使用は、会話が終わる直前に行われたことから、男子Dがリラックスした気持ちで「よ」を用いたと思われる。終助詞「よ」が1回しか使われていないこと、及び相手に対して親しみを表すとされる終助詞「ね」と「よね」が使われていないことから判断して、小3が教師を年上・目上の人であると見なし、教師との会話が改まった場であることをよく理解していることが分かる。

小6の場合には、その前の発達段階である小3に比して、「対人関係的終助詞」の種類及び頻度が増加する。相手である教師との連帯感を明らかに示す終助詞「ね」の使用が一番多いという結果が得られた。小6の資料では、「よ」は2例(男子1回、女子1回)、「ね」は7例(男子5

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

回、女子 2 回)、「よね」は 3 例(男子 3 回)出現した。生徒たちの発言に現れた「対人関係的終助詞」の例を見てみよう。

(8)37 先生(男) 野球は、なんか、余り面白くないよ。テレビで「巨人」しかやらないから嫌いなんだよ。

38 男子 2 「巨人」っていうのはチームの名前ですね。

39 先生 テレビで「巨人」しかやらないから、「巨人」のファンに自動的になるだけだ。

40 女子 1 そうですね。

41 先生 そんなもんだよ。特に新潟はまるでそうだよ。

42 男子 2 いいお金ばかりかけて、良いチームを探せるんですね。

(新潟市内 B 小学校 6 年生。録音した会話から)

(8)見られる「ね」は話し手と聞き手の情報や判断の一致を、話し手が表明しようとしていると言うことを表している。生徒たちは教師と意見を共有していることを「ね」の使用によって表している。教師の発言に同意を表し、教師に対する連帯感を示しているのである。一方、教師の方は自己主張形の「よ」を連発していることも興味深い。会話におけるコミュニケーション機能という観点から、(8)の「ね」は会話を円滑に進めるために使用されていると考えられる。

今回の調査対象になっている全発達段階の中で、中 2 の「対人関係的終助詞」の使用頻度が一番高いという結果が出た。表 1 によると「よ」は 9 例(男子 2 回、女子 7 回)、「ね」は 21 例(男子 10 回、女子 11 回)、「よね」は 7 例(男子 1 回、女子 6 回)出現する。女子は話し手の意志や判断を強く押し付ける働きを持つ終助詞「よ」・「よね」を男子より頻繁に用いるという結果が得られた。教師との会話の中で中 2 は自分の判断表明が、相手である教師の感情を傷つけることに配慮し、口調を和らげる働きをする「ね」を用いる。この場合、話し手が自分の意見を言い切った印象を避けるための「ね」の使用は、敬語表現につながると考えられる。これに対して、生徒は「自分の夢」について語っている時に終助詞「よ」を使っている。その時に、中 2 は自分の判断・考えを強調して相手に伝えている。「よね」の使用は教師の発言に対する応答ではあるが、教師を含めた回りの同席者全員の同意の確認となっている。しかし、こうした「よね」の使用はやはり「なれなれしい」、「くだけた」といった印象を与える場面が多い。全体的に中 2 生、特に女子生徒は教師との心理的な距離を縮めるために「対人関係的終助詞」を会話方略として用いていると言える。

高 2 による「対人関係的終助詞」の使用は比較的低いという結果が出た。用いられた「対人関係的終助詞」は教師に対して使われた「よ」(4 回)のみであった。さらに、その使用がすべて高 2 女子によって行われたことが興味深い。女子は夏休みの予定について話している時に、「部活の先生の結婚式」という情報が相手の教師にとって新しい情報であるという前提に立って、「対人関係的終助詞」「よ」を使っている。教師との会話において、高 2 によって用いられた「よ」は、教師にとって未知の情報であるということを明示するために使われている。資料

では、高 2 が自分の発言の後に「はい」を付け加える興味深い例が出現した。これは小～中のデータには見られなかった現象である。発言直後の「はい」の使用(男子 1 回、女子 4 回)は「対人関係」を表す表現になんらかの関係があると思われる。これは高校生の特徴と言えるかも知れない。高校生による発言直後の「はい」の使用例を見てみよう。

(9) 26 先生(男) 毎日部活をやっているの？

27 女子 2 あ、そうなんですけど。私はなかなか難しいところもあります。はい。

28 男子 2 僕は帰宅部です。前まで、柔道部をやっていたんですけど、勉強との両立が難しくなって辞めました。はい。

(新潟市内 F 高等学校 2 年生。録音した会話から)

教師との会話で使用された発話直後の「はい」は、生徒たちが教師との会話の改まり度の高い場であると理解する。友達同士で話している時に、同じ生徒たちが自分の発言の後に「はい」を付加するとは考え難い。さらに、教師との会話において、高 2 は教師の質問に対して発話順を保持しながら語っている。そのことから (9)の「はい」には発話順番の交替を示すという聞き手指向的な機能があると思われる。高 2 による「対人関係的終助詞」がほとんど使われなかったことと、自分の発言の直後に「はい」を使用すること、これら二つの現象から高 2 にとって教師との会話の改まった場であることがよく分かる。

以上、教師との会話において、生徒による「文体」、「伝達態度表現」という文末形式の使用について検討した。明らかになったことは次のようである。

小 3 は教師に対して、会話の最初から最後まで、一貫して「敬体」のみを用いることが分かった。小 3 による終助詞の使用数(男子 1 回)は極めて低かった。小 3 による「文末形式」の使用の分析結果は、彼らは教師を目上の人であると見なし、教師との会話を改まり度が高い場であると認識することを示す。小 3 は自分の態度を表す及び会話を調整するために心理的な余裕がないと言える。

小 6 と中 2 の対教師会話においては「常体」、「体言止め」という「文体」の使用が際立っている。「文体」の使用に関して、小 3 とは大きな違いがある。「文末形式」の使用から、小 6・中 2 は教師を自分と同じ「ウチ」のグループの人であると見なしていることが分かった。「常体」、「体言止め」の使用率の高さ及び終助詞の使用は、彼らの対教師親密度を表すための方略であると言える。「敬体」の特徴のある使い方(例えば、緊張感が上がった時に使用することなど)はその証拠になる。

高 2 の対教師会話では、ほぼ常に「敬体」が使用される。高 2 は会話相手によって表現の仕方を変える。教師に対してもっともよく使われた終助詞「ね」の使用は生徒が自分の意見を緩和し、教師の意見と不一致を避けるための戦略である。相手によって「文末形式」を使い分けることは、高 2 は公的な場と私的な場を区別し、教師との会話を改まり度が高い場で

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

あることを認識していることを示す。

自称詞使用

生徒と教師との会話において、敬語表現と厳密に関係する生徒の自称詞使用を考察したい。日本語には数多くの人称詞があるが、日本語の人称詞は、文法上の不可欠な要素であるとは言えない。人称詞の働きは話し手と相手との関係、場、話題となる第三者との関係を明確に表している。自称詞の使い分けも敬語表現の使用の一つの要素であると考えられる。

表1のとおり、教師との会話の中で小3による自称詞の使用数は非常に低い。用いられた自称詞は男子(「僕」1回、「俺」1回)、女子(「私」1回)のみである。教師との会話において、小6は自称詞をよく用いる。これは小3と対照的である。用いられた自称詞は男子(「俺」1回、「僕」2回)、女子(「私」9回、「俺」3回)である。

(10)138 女子2 えーとね。余り知らない人とか、初めて話し掛けられた人とかには時々「私」と言うけど。ほぼ「俺」で。それで学校の友達とか先生とか家族の人にも「俺」と言う。

150 女子2 俺はいつも「俺」だ。

(新潟市内B小学校6年生。録音した会話から)

(11)116 先生 じゃ、近所の人にはなんとと言う？(話題は「挨拶」についての会話)

118 女子2 多分私はいても素通りする。

125 先生 先生に会って、あまりしてないだろう？してるか？

132 女子2 もし、私が会ったら「おはようございます」みたいに言うかもしれない。

(新潟市内B小学校6年生。録音した会話から)

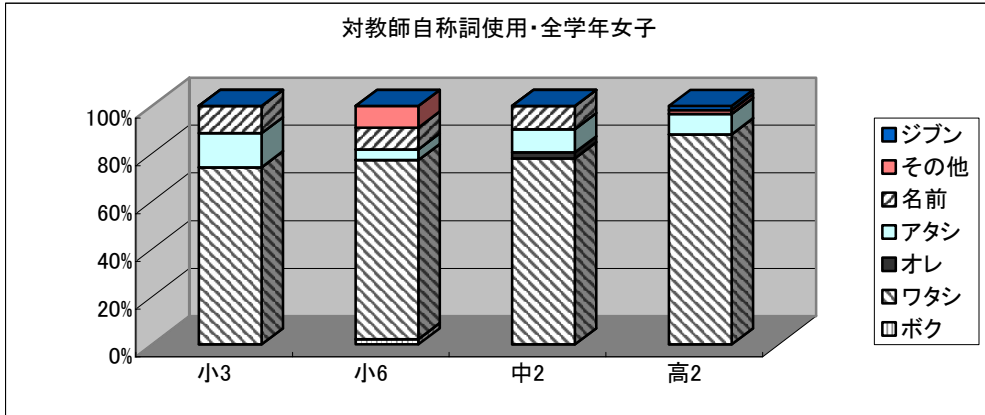
今回のデータでは小6女子による自称詞「俺」の使用(3回)が見られた。それらの使用者である女子2は日常会話で自称詞「俺」しか使わないと主張した。しかし、会話の中で同じ女子2は自称詞「私」も使用した(8回)。

調査対象であった全学年のアンケートデータによると、女子の場合、相手が教師であるときに、最もよく使われるのは「ワタシ」であり、8割前後を占めている(小3(75%)、小6(75%)、中2(78%)、高2(88%)。女子が使用するには不適切だと非難される「ボク」や「オレ」の使用は、調査結果によると、対後輩(小3・0%、小6・0%、中2・5%、高2・0%)、対親しい友達(小3・3%、小6・8%、中2・12%、高2・0%)、対親(小3・0%、小6・3%、中2・8%、高2・0%)という最も気楽な場面でさえ非常に少ない。

共通であることは、自称詞の使用はすべて会話の最初の3分間に行われているということである。一般に、会話の録音においては、最初の3分程が一番緊張感が高い時間帯である。そのような緊張感のために、各生徒は最初の発言に自称詞を用いたと考えられる。一方、「俺」の使用は会話が終わる直前、すなわち緊張感が緩和された時に、行われた。つまり、小2、小6の

自称詞使用は緊張感や場の改まり度と密接な関わりがあることがよく分かった。

図2 対教師自称詞使用・全学年女子



(調査にもとづき筆者作成)

中2と教師との会話においては、自称詞がよく用いられた(男子「俺」(7回)、女子「私」(3回)。全会話にわたって男子は「俺」のみを使った。男子の対教師自称詞「俺」の一貫した使用が顕著な特徴となっている。そのいくつかの例を見てみよう。

(11) 27 先生(男) そうですね。はい。じゃ、お互いに、どうでしょう、質問してください。

30 男子1 俺は別に。 ない。

31 先生 しない?」

(新潟市周辺C中学校2年生。録音した会話から)

(12)155 男子2 俺の勧め「新津のAラーメン」、分かりますか。

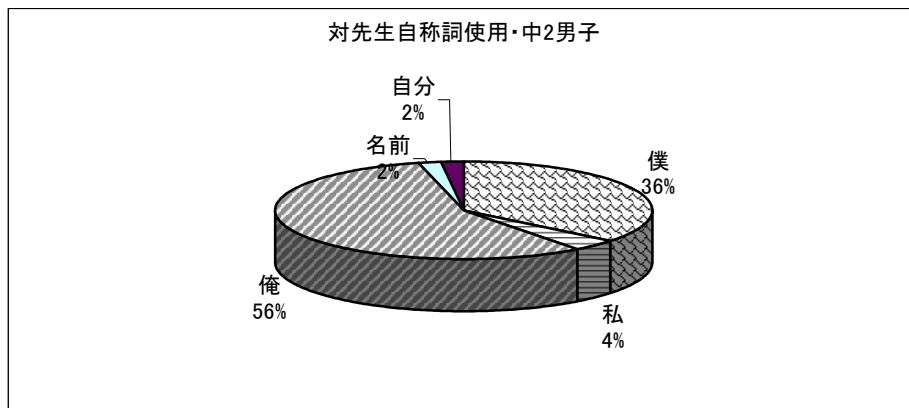
156 先生 あの、角のところか?

157 男子2 そう、そう、俺は好きです。

(新潟市周辺E中学校2年生。録音した会話から)

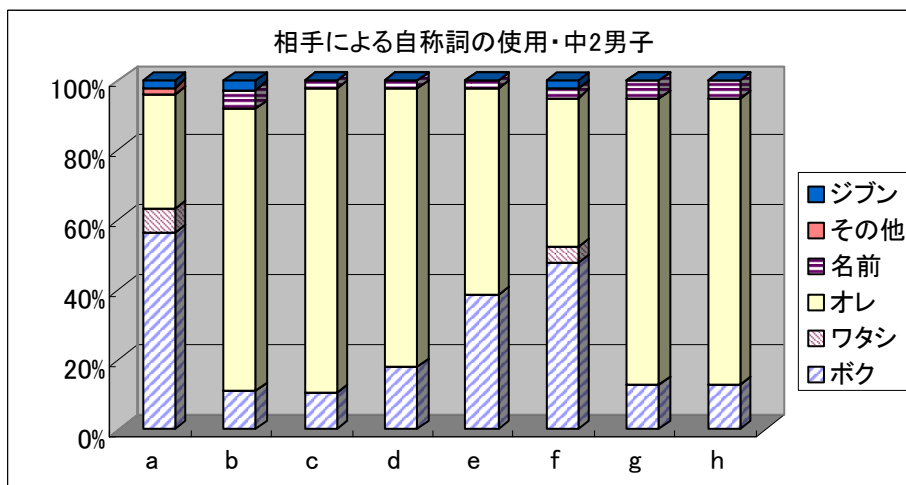
(11)、(12)で教師に向かって話す時に、中2男子は自称詞「俺」のみを用いている。(12)のように、発言の文体は敬体である場合も、自称詞「俺」が使われている。このような、中2男子の対教師自称詞「俺」の使用は、少なくとも対象となった3校の生徒たちの場合、基準になりつつあるのではないだろうか。会話の録音が行われた学校で、中2の敬語意識を調べるために、アンケート調査を行った。中学校でのアンケート調査の対象となったのは男子108名、女子105名、全員で213名だった。自称詞の使用に関するアンケートの設問に対して、男子は先生に対して主に「俺」56%を使い、女子は先生に対して「私」78%を使うという回答した。

図3 対教師自称詞使用・中2男子



(調査にもとづき筆者作成)

図4 自称詞使用・中2男子 (記号「a」よその知らない人、「b」後輩、「c」親しい友達、「d」親しくない友達、「e」先輩、「f」先生、「g」母、「h」父、を表す。)



(調査にもとづき筆者作成)

中2男子の対教師自称詞「俺」の使用率56%(図3)は対先輩自称詞「俺」の使用率59%(図4)とほとんど同じである。「よその知らない人」に対する自称詞の使用率を見ると、「俺」は33%、「僕」

は56%、と逆になっている。その結果から、中学校2年生男子は教師を「ウチ」グループの人であると見なし、教師との会話の中で自称詞「俺」を基準としていることが分かる。

高2によって最も多く使用された自称詞は「私」と「僕」だった。「私」はすべて女子によって使われた(6回)。一方、「僕」は男子によってのみ使われた(4回)。高2の場合、教師との会話で、生徒による自称詞を使ったケースは、生徒が教師に指名された時、または発言しなければならない時、つまり緊張感や改まり度が高い時であった。

以上、教師との会話における、生徒の対教師自称詞使用の実態を考察した。明らかになったことは次のとおりである。改まり度や緊張感がかなり高い時、すなわち会話が始まった直後、教師と一対一の話の時に、丁寧度が高い自称詞「私」、「僕」が使用される。その逆の場合、会話が終わる直前、すなわち緊張感が緩む時に、自称詞「俺」の使用が見られる。生徒の対教師自称詞の使用が、場の改まり度や緊張感と密接な関係を持つことが明らかになった。一方、中2男子の対教師自称詞使用において、自称詞「俺」の使用が基準に近いものになっているという考察の結果から、中2にとって教師は心理的に近い存在の人であるということが言える。

会話のやり取りの特徴

これまで表1のデータに基づいて「敬語使用率」、「自称詞使用」、「文末形式の使用」に関して考察してきた。本節では、教師との会話において生徒・学生の会話のやり取りを見てみたい。会話のやり取りは、教師との会話において生徒・学生による会話の改まり度の認識、および彼らの態度を指す。

小3と教師との会話において、会話のやり取りは非常に単純である。小3は意識的に会話が調整できないとも言える。表1に示されている教師の「turn-taking数」(会話順取り数)50回と「疑問文」の数34問、生徒全員の「turn-taking数」63回を見ると、会話が「教師の質問に対する生徒の答え」という形で進行していることが明らかである。教師に対する生徒の疑問文の数は0問である。生徒たちには、自ら教師に対して質問をし、新しい話題を提出したりするという会話の意識的な調整を行うための余裕がないことが明らかである。教師が会話を先導して、生徒から答えを引き出す。質問された、または名前を呼ばれた生徒は順番を守って応答する。小3が同席の友達の発言を遮って会話を進展させるというような会話のやり取りは見られなかった。

教師との会話のやり取りにおいて、小6と中2の分析データには共通性が見られたため、この二つの学年を一緒にして考察したい。小6・中2と教師との会話においては、そのやり取りにダイナミズムが出てくる。表1に見られるように、教師の「turn-taking数」は小6(122回)、中2(409回)だった。一方、生徒全員の「turn-taking数」は小2(177回)、中2(483回)であった。教師の「turn-taking数」と比べてみると、生徒たちが教師との会話において積極的であることが明らかになる。小6、中2は、発言する順序を守らずに、互いの発言を遮ることが多い。調査では生徒が教師の質問に答えるという形で会話が進められた。しかし、この学年の生徒たち

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

は、教師の質問に答えるだけではなく、自分でも教師や同席者に対する質問をしたり、新しい話題を出したりする。会話において、生徒の質問の総数は小6(25問)、中2(74問)であった。しかし、教師に直接的に向けられた質問の数は小6(4問)、中2(16問)に過ぎない。残りの疑問文は同席の友達に対する問い掛けであった。さらに、教師に向けられたほとんどの疑問文はいわゆる「平叙文の語尾のイントネーションを上昇させた疑問文」ではなく、疑問文の終助詞「か」をつけた疑問文である。助詞「か」をつけてたずねることは、より完全な文を使用するという点で、より丁寧であると思われる。さらに、そうした疑問文は丁寧語とともに用いられる。次の例を見てみよう。

(13)93 女子1 先生って生徒会長をやっていたんですか。

98 先生(男) あ、そう、 おかしいなー。

99 男子1 話して!

100 女子1 笑) ばれた!

(新潟市周辺 E 中学校 2 年生。録音した会話から)

(14)159 先生(男) 次。えーと、寝る時に家の人に挨拶する?

160 女子1 はい、もちろん。

161 男子1 すゆゆー!

162 先生 何と言ってる?

163 男子1 Good night!

(新潟市内 B 小学校 6 年生。録音した会話から)

(13)では教師に対して、女子1は言語形式上の正しい疑問文とくだけすぎる「(笑)、ばれた!」という表現とを使っている。これを見れば、小6、中2の生徒たちには公的な場と私的な場を区別する能力が(ダイナミックだが一貫性がないという意味において)未完成であることを明らかに示している。(14)に見られるように、生徒たちは教師に対して親密さを表すために、様々な会話方略を用いる。たとえば、(13)の100のように発言に伴う笑い小6(3回)、中2(8回)、という非言語的表現があったり、冗談を言ったり、(12)161のような「baby talk」小6(3回)、や(50)の163のように英語を使ったり小6(6回)、中2(6回)、することが多い。

高2の会話のやり取りの最大の特徴と言えるのは、会話における彼らの態度である。教師との会話が改まり度の高い、公的な場であることを認識し、生徒は発言する順番を守って、会話を行う。教師の「turn-taking 数」65回に対して生徒たちの「turn-taking 数」は110回である。生徒たちの方は数字が高くなっているが、それは高2がお互いにも質問をしながら会話を進めたからである。高2は先生に「はい、どうぞ」、「さんから」又は「はい、お願いします」のように言われた時、発言をする。この点で、小3と興味深い表面上の類似を示すと同時に、小6、中2の会話とは極めて対照的である。表1の「疑問文」の項目で、高2の質問の数を示しめした。それによれば、高2が教師に対して行った質問はほとんどの場合終助詞「か」がつ

けた完全な疑問文によるものであった。

以上、「会話のやり取り」という観点から生徒・学生の対教師会話における彼らの態度や場に対する認識のあり方を見てきた。次のことが明らかになった。

教師との会話において、小学校3年生のやり取りは単純である。生徒と教師との会話が「質問 答え」という形で行われる。生徒たちは意識的に会話を調整することができない。このような特徴から、小学校3年生徒たちは先生を権威のある指導者であると見なしていることが分かる。

小6と中2の場合、生徒たちの対教師会話におけるやり取りにはダイナミズムが出てくる。さらに、生徒たちは互いの発言を遮ったり、発言順が重複したりすることが多い。生徒たちは、教師および同席の友達に積極的に質問をしながら会話を進める。さらに、小6年、中2年の生徒は教師との心理的距離を縮めるために、冗談、笑いなど、様々なコミュニケーション方略を用いる。

高2は、教師との会話が改まり度が高い、公的な場であることを認識し、教師および同席の友達に対して配慮を示しながら会話を進めている。

おわりに

生徒の対教師敬語の使用においては、「親しさ」という基準が敬語使用・不使用に大きく関係している。「ウチ・ソト」概念が示すように、「ウチ」の人には敬語を使わない。よって、生徒の対教師敬語使用の減少は、教師に対する彼らの親密さを表すコミュニケーション方略として捉えることができる。

話し言葉における生徒の対教師言葉遣いについて考察した。その結果、生徒の成長過程に伴う言語活動の変化が明らかになった。生徒の言語活動上の特徴は彼らの成長の時期の特徴をよく反映する。小3は敬語の知識に乏しいが、教師をいわば「絶対的目上」と見なし、知識がある限り徹底的に敬語を使い、会話の中で一貫して敬語を使用している。

小6と中2の対教師言葉遣いには教師に対する親密さや多様な自己表現が顕著に現れている。彼らは上下関係より教師との親密さを重視している。具体的に言えば、これは「敬体」使用率の低さ、「体言止め」使用率の高さ、自称詞の種類などによって表現されている。この年齢は自我に目覚める年齢である。小6と中2は共に教師を心理的に近い存在であると見なしている。とりわけ会話においては、彼らはまだ、公的な会話と私的な会話との区別が充分にできていないことが分かった。

高2の場合、自我が確立へと向かう年齢である。彼らは教師との会話を公的な場面と認識し、意識的により豊かな敬語表現を用いている。

<注>

学校における生徒の対教師敬語使用 (Slyusareva)

- 1) 菊池(2000)は敬語の種類を「話題の敬語」と「対話の敬語」に分ける。会話の話題に登場する人物の言語上の待遇の仕方を「話題の敬語」と呼び、送り手の受け手に対する待遇表現を「対話の敬語」と呼ぶ。
- 2) 便宜上、各学年を省略記号で表す。小学校3年生「小3」、小学校6年生「小6」、中学校2年生「中2」、高等学校2年生「高2」にする。
- 3) 会話での数字は発言の番号を表す。
- 4) 会話のスクリプト中の(括弧)内の補充表現は筆者による。
- 5) 「括弧」は二人が同時に話していること、又は発言が重視されていることを表す。
- 6) 記号「エ」は筆者を指す。
- 7) 「タメ口」は相手と同程度の地位であることを言う俗語である。(『広辞苑』第五版、岩波書店、p.1678)
- 8) 「turn-taking 数」は会話の参加者の発話順取りの回数を表す。
- 9) 敬語使用率を明らかにするために、会話の参加者の発言を節に分けて数えた。本稿で用いる「節」とは、いわゆる「主節」及びいわゆる「従属節」、「等位節」を含む概念である。「体言止め」も「形容詞・形容動詞止め」も「節」と見なした。
- 10) 「尊敬語(文中含めて)」、「謙讓語(文中含めて)」、「丁寧語(文中含めて)」は例えば「先生はとなりの町に住んでいらっしゃるので、どこかでお会いすることもありますが、お体にお気をつけてお過ごしください。」(新潟市内J高等学校2年生の書き言葉の例である)のように、文中に出てくる「尊敬語」、「謙讓語」、「丁寧語」も含む用語である。
- 11) 「文体」は話相手への配慮、心理的距離の調整などに基づいて選ばれた文末の形式である。「敬体」は丁寧な表現をするために文末を「デス・マス」などで結ぶ文体である。「常体」は文末を「ダ・デア
- ル」で終える文体である。「体言止め」は発話上一つの文(同時に一つの節でもある)として考える。「体言止め」は断定の助動詞「デス・デア
- ル・ダ」が省略されているが、意味上文の機能を表していると思
- なすことにする。
- 12) 「伝達態度表現」は話し手の表現態度を表すものであり、聞き手との知識の共有制に関するものである。
- 13) 「一重下線」は「敬体」、「二重下線」は「常体」、「破線の下線」は「体言止め」の使用を示す。

< 参考文献 >

- 井出祥子(1990)「敬語の語論的分析」『日本女子大学英米文学研究』第25号、日本女子大学、117~127頁
- 井上史雄(1999)『敬語はこわくない』講談社現代新書
- 宇在美まゆみ(1999)「初対面二者間会話における話題指導頻度と対話相手の年齢・社会的位置・性の関係について」『ことば』第17号、現代日本語研究会、44~57頁
- 大橋富貴子(1976)「小学生の敬語教育」『言語の生活』第295号、筑摩書房、66~73頁
- 蒲谷宏、川口義一、坂本恵(1999)『敬語表現』大修館書店
- 菊地康人(1997)『敬語』講談社
- 小林美恵子(1995)「文末形式に見る女子高校生の会話管理」『ことば』第16号、現代日本語研究会、35~51頁
- 阪本俊夫(2001)「現代の社会関係と敬語の可能性」『言語』11月号、大修館書店、34~43頁
- 時枝誠記(1951)「対人関係を構成する助詞・助動詞」『国語国文』20巻9号、1~10頁
- 南不二男(1999)『敬語』岩波新書
- 三輪正(2000)『人称詞と敬語』人文書院
- メイナード、泉子・K(1997)『会話分析』くろしお出版
- スリュウサレーヴァ・エレナ『学校における生徒・学生の対教師敬語表現の研究 新潟市および周辺の小学校、中学校、高等学校、大学での調査結果から』(全129頁、付資料197頁)新潟大学大学院修士課程 人文科学研究科修士論文、2002年1月提出

主指導教員（船城俊太郎教授）、副指導教員（大橋勝男教授・中沢敦夫教授）